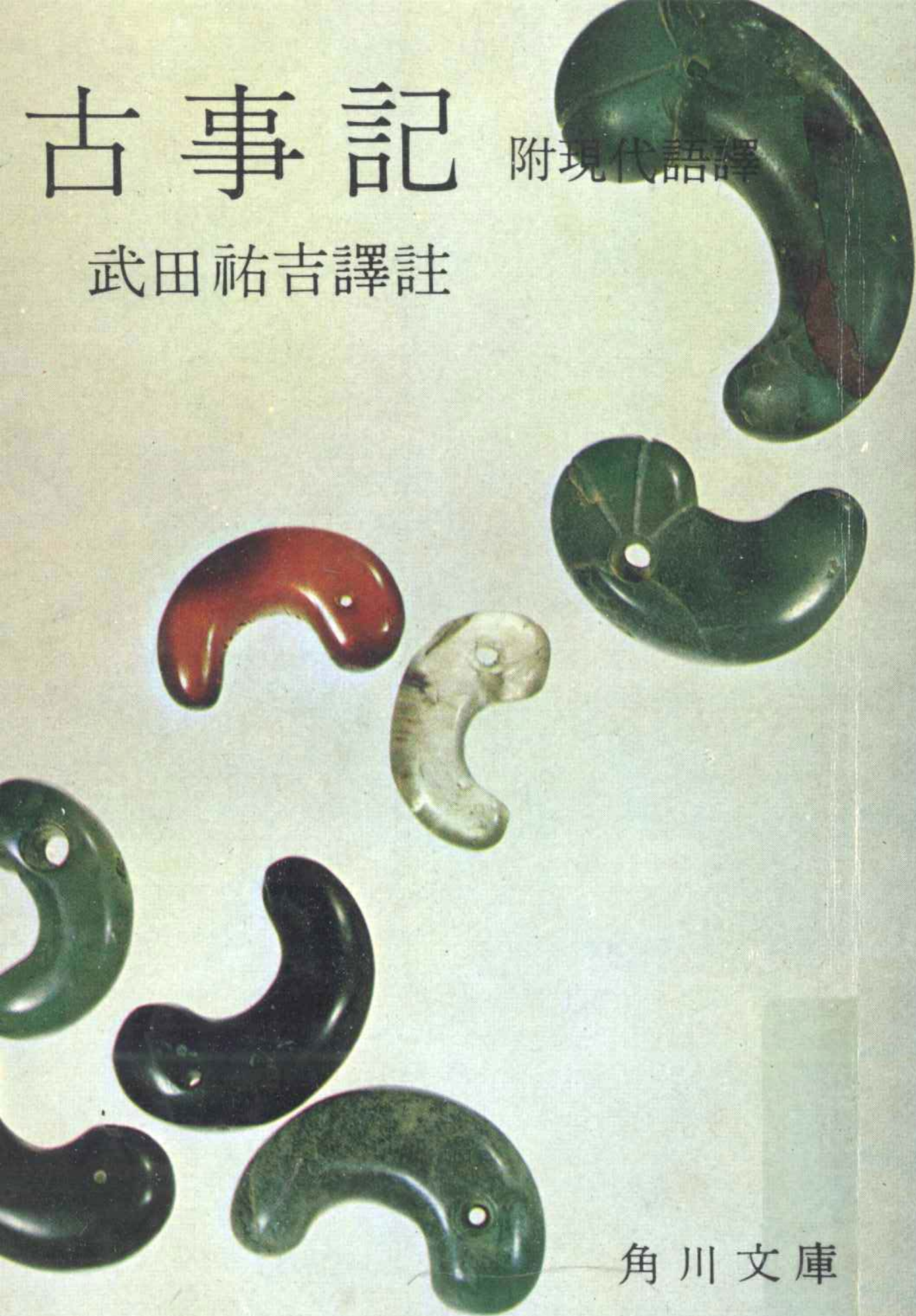


古事記

附現代語譯

武田祐吉譯註



角川文庫

昭和三十一年五月二十日 初版發行
昭和四十五年六月三十日 三十四版發行

定價は、帯・カバー
に明記してあります

譯註者

武田祐吉
たけだ ゆうきち

發行者

角川源義

印刷者

渡邊龍祐

角川文庫
古事記



東京都豊島區東池袋二ノ四五

發行所

東京都千代田區富士見二ノ十三
①一〇二 ②東京一九五二〇八

株式會社 角川書店
かどかわしよてん

電話東京 (265) 七二二一 (大代表)

落丁・亂丁本はお取替えいたします

Printed in Japan

都印刷・本間製本

古　　事　　記

附 現 代 語 譯
語 句 索 引
歌 謠 各 句 索 引

武田祐吉譯註



角 川 文 庫

1

目次

凡例

古事記上つ卷 序并せたり

序文

過去の時代

古事記の企畫

古事記の成立

一 伊耶那岐の命と伊耶那美の命

天地のはじめ

島々の生成

神々の生成

黄泉の國

身 禊

三	本文	一四	一四	一四	一五	一六	一八	一八	元	三三	三三	三六
二二	現代語譯	九六	一九六	一九六	一九八	一九九	二〇一	二〇一	二〇一	二〇四	二〇六	二〇九

二 天照らす大神と須佐の男の命

誓約

天の岩戸

三 須佐の男の命

穀物の種

八俣の大蛇

系譜

四 大國主の神

菟と鰐

蜃貝比賣と蛤貝比賣

根の堅州國

八千矛の神の歌物語

系譜

少名毘古那の神

御諸の山の神

大年の神の系譜

五 天照らす大御神と大國主の神

天若日子

二九 二二

二九 二二

三三 二四

三五 二六

三五 二六

三五 二七

三六 二九

三六 二〇

三六 二〇

四〇 二三

四一 二三

四一 二五

四九 二〇

五〇 二一

五一 二三

五一 二三

五二 二三

五三 二四

國譲り

六 邇邇藝の命

天降

猿女の君

木の花の佐久夜毘賣

七 日子穗穗出見の命

海幸と山幸

豊玉毘賣の命

八 鵜葺草葺合へずの命

古事記中つ卷

一 神武天皇

東征

速吸の門

五瀬の命

熊野より大和へ

久米歌

大物主の神の御子

八〇	七六	七四	七三	七三	七三	七三	七三	七二	七一	六九	六八	六八	六三	六三	六三	六〇	五九	五八
二六〇	二五六	二五四	二五三	二五三	二五三	二五三	二五二	二五一	二四九	二四九	二四五	二四五	二四三	二四三	二四二	二四〇	二四〇	二三七

當藝志美美的命の變

二 綏靖天皇以後八代

綏靖天皇

安寧天皇

懿德天皇

孝昭天皇

孝安天皇

孝靈天皇

孝元天皇

開化天皇

三 崇神天皇

后妃と皇子女

美和の大物主

將軍の派遣

四 垂仁天皇

后妃と皇子女

沙本毘古の叛亂

本牟智和氣の御子

八二 二六三

八四 二六四

八四 二六四

八四 二六五

八五 二六五

八五 二六六

八六 二六六

八六 二六七

八七 二六八

八八 二六九

九一 二七一

九一 二七一

九二 二七二

九三 二七三

九四 二七三

九六 二七六

九六 二七六

一〇一 二八〇

丹波の四女王

時じくの香の木の實

五 景行天皇・成務天皇

后妃と皇子女

倭建の命の西征

出雲建

倭建の命の東征

思國歌

白鳥の陵

倭建の命の系譜

成務天皇

六 仲哀天皇

后妃と皇子女

神功皇后

鎮懷石と釣魚

香坂の王と忍熊の王

氣比の大神

酒樂の歌曲

108	282
108	283
108	284
108	284
108	284
108	285
108	287
108	288
108	292
108	292
108	295
108	297
108	298
108	299
108	299
108	299
108	301
108	301
108	303
108	303
108	304

七 應神天皇

后妃と皇子女

二六 三〇六

大山守の命と大雀の命

二六 三〇七

葛野の歌

二六 三〇八

蟹の歌

二九 三〇八

髪長比賣

三一 三二〇

國主歌

三一 三二三

文化の渡來

三四 三二四

大山守の命と宇遲の和紀郎子

三五 三二五

天の日矛

三七 三二七

秋山の下氷壯夫と春山の霞壯夫

三九 三二九

系譜

四一 三三〇

古事記下つ卷

四二 三三二

一 仁德天皇

四二 三三三

后妃と皇子女

四二 三三三

聖の御世

四三 三三三

吉備の黒日賣

四四 三三四

八田の若郎女

速總別の王と女鳥の王

雁の卵

枯野といふ船

二 履中天皇・反正天皇

履中天皇と墨江の中つ王

反正天皇

三 允恭天皇

后妃と皇子女

八十伴の緒の氏姓

木梨の輕の太子

四 安康天皇

目弱の王の變

市の邊の押齒の王

五
雄略天皇

后妃と皇子女

若日下部の王

一四六 三六

140 141

150 150

一五三 三三三

一五四 三三六

一五五
三三七

一五五
三三七

一五八 三四〇

一五九
三四一

一五九
三四一

一五九
三四二

140 11211

一六五
三四八

一六五
三四八

一六
三五二

140 三三三

140 1111

140 目錄

引田部の赤猪子

吉野の宮

葛城山

春日の袁杼比賣と三重の采女

六 清寧天皇・顯宗天皇・仁賢天皇

清寧天皇

志自牟の新室樂

歌垣

顯宗天皇

仁賢天皇

七 武烈天皇以後九代

武烈天皇

繼體天皇

安閑天皇

宣化天皇

欽明天皇

敏達天皇

用明天皇

一七三 三五五

一七四 三五七

一七五 三七六

一七六 二七九

一八一 三六五

一八二 三六五

一八三 三六六

一八四 三六七

一八五 三六九

一八六 三七三

一八七 三七三

一八八 三七三

一八九 三七三

一九〇 三七四

一九一 三七四

一九二 三七五

一九三 三七六

一九四 三七七

崇峻天皇

一九三

三七七

推古天皇

一九四

三七八

解 說

三七九

語句索引

三九五

歌謠各句索引

四二四

凡例

- 一 本書は、古事記本文の書き下し文に脚註を加えたもの、現代語譯、解説、および索引から成る
- 一 古事記の本文は、眞福寺本を底本とし、他本をもつて校訂を加えたものを使用した。その校訂の過程は、特別の場合以外は、すべて省略した。
- 一 書き下し文、および索引は、歴史的かなづかいにより、その他の部分は、新かなづかいによつた。漢字はすべて正體を使用した。
- 一 古事記は、三卷に分けてあるだけで、内容については別に標題はない。底本とした眞福寺本には、上方に見出しが書かれているが、今それによらずに、あらたに章を分けて、それぞれ番號や標題を付け、これには括弧をつけてあらたに加えたものであることをあきらかにした。また歌謠には、末尾に括弧をして歌謠番號を記し、索引に便にすることとした。

校註

古事記

古事記 上つ卷 序并はせたり

〔序 文〕

〔過去の時代〕

臣安萬侶言さく、それ混元既に凝りしかども、氣象いまだ敦からざり、
 とき、名も無く爲も無く、誰かその形を知らむ。然ありて乾と坤と初めて
 分れて、參神造化の首と作り、陰と陽とここに開けて、二靈群品の祖とな
 りたまひき。所以に幽と顯とに出で入りて、日と月と目を洗ふに彰れたま
 ひ、海水に浮き沈みて、神と祇と身を滌ぐに呈れたまひき。故、太素は本
 冥たれども、本つ教に因りて土を孕み島を産みたまひし時を識り、元始は
 綿邈たれども、先の聖に頼りて神を生み人を立てたまひし世を察にす。寔
 に知る、鏡を懸け珠を吐きたまひて、百の王相續き、劔を喫み蛇を切りた
 まひて、萬の神藩息せしことを。安の河に議りて天の下を平け、小濱に
 論ひて國土を清めたまひき。ここを以ちて番の仁岐の命、初めて高千の

一 過ぎし時代のことを傳え、
 歷代の天皇これによつて傳教
 を正しくしたことを説く。

二 この序文は、天皇に奏上
 する文として書かれていたの
 で、この句をはじめすべてそ
 の詞づかいがなされる。安萬
 侶は、太の安麻呂、古事記の
 撰者、養老七年（七二二）歿。

三 混元以下、中國の宇宙創
 生説によつて書いてある。萬
 物は形と氣とから成る。形は
 大地に分かれ、氣は陰陽に分
 かれる。

四 アメノミナカヌシの神、
 タカミムスビの神、カムムス
 ビの神の三神が、物を造り出
 す最初の神となつた。

五 イザナギ、イザナミの二
 神が、萬物を生み出す親とな
 つた。

六 幽と顯とに以下 イザナ
 ギ、イザナミ二神の事蹟。

七 鏡を懸け以下、天照らす
 大神とスサノヲの命との事蹟。

嶺に降り、神倭の天皇、秋津島に經歷したまひき。化熊川より出でて、天の劔を高倉に獲、生尾徑を遮きりて、大島吉野に導きき。倭を列ねて賊を攘ひ、歌を聞きて仇を伏しき。すなはち夢に覺りて神祇を敬ひたまひき、所以に賢后と稱す。烟を望みて黎元を撫でたまひき、今に聖帝と傳ふ。境を定め邦を開きて、近つ淡海に制したまひ、姓を正し氏を撰みて、遠つ飛鳥に勅したまひき。歩と驟と、おのおの異に、文と質と同じからずといへども、古を稽へて風猷を既に顔れたるに繩したまひ、今を照して典教を絶えなむとするに補ひたまはずといふこと無かりき。

〔古事記の企畫〕

飛鳥の清原の大宮に太八洲しらめしし天皇の御世に暨びて、潜龍元を體し、洊雷期に應へき。夢の歌を聞きて業を纂がむことをおもほし、夜の水に投りて基を承けむことを知らしたまひき。然れども天の時いまだ臻らざりしかば、南の山に蟬のごとく蛻け、人と事と共に給りて、東の國に虎のごとく歩みたまひき。皇輿たちまちに駕して、山川を凌ぎ度り、六師雷のごとく震ひ、三軍電のごとく逝きき。杖矛威を擧げて、猛士烟のごとく起り、絳旗兵を躍かして、凶徒瓦のごとく解けぬ。いまだ浹辰を移さずして、氣沴おのづから清まりぬ。すなはち牛を放ち馬を息へ、愷悌して華夏

八 安の河に以下、ニニギの命の事蹟。
九 神武天皇。

一 崇神天皇。
二 仁德天皇。
三 成務天皇。
三 允恭天皇。

一 天武天皇が帝紀と本辭とを正して稗田の阿禮に授けたことを説く。
二 天武天皇。